

第3章 幼児教育共通カリキュラムで重視する内容と実践事例 目次

1 規範意識の芽生えの育成	164
3歳児 4月 「今、手を洗いたいよ」	166
4歳児 1月 「新しいルールを守って遊ぼう」	168
5歳児 5月 「みんなで巧技台を組み立てよう」	170
5歳児 2月 「ルールを自分たちで作り、守る - 3すくみ鬼 -」	172
2 こころざし教育	174
3歳児 7月 「あいさつ、返事は元気よくしよう」	176
4歳児 5月 「元気にあいさつをしよう - あいさつ運動を通して -」	178
5歳児 7月 「お兄さんお姉さんのようになりたいなあ」	180
5歳児 1月 「もうすぐ修了（卒園）だね」	182
5歳児 「人を敬う心、人の役に立つうれしさ・やりがい」	184
3 食育	186
3歳児 6月 「二十日大根ができたよ」【1 食事の重要性】	188
3歳児 10月 「さつまいもっておいしいね」【3 食品を選択する能力】	190
4歳児 5月 「楽しく食べましょう」【5 社会性】	192
4歳児 1月 「なんでも食べられるといいね」【2 心身の健康】	194
5歳児 6月 「育てるっておもしろい」【4 感謝の心】	196
5歳児 10月 「収穫物を味わい、秋の食べ物を知る」【6 食文化に関する理解】	198
5歳児 10月 「お月見の行事を通してみよりの秋の収穫物を知る 【6 食文化に関する理解】	199
4 体力の向上	200
3歳児 10月 「つかまらないように 逃げよう」	202
4歳児 10月 「みんなと一緒に助け鬼をしよう」	204
5歳児 4月 「アスレチックに挑戦しよう」	206
5歳児 10月 「忍者の修行をしよう」	208
5歳児 「多様な動きを取り入れよう」	210
5 生活習慣・学習習慣の共通化・段階化	212
3～5歳児 「ポイントを押さえた段階的指導」	214
3歳児 11月 「先生の紙芝居、楽しいな」	220
4歳児 9月 「お話を聞いてね」	222
5歳児 9月 「当番活動に取り組もう」	224
5歳児 12月 「みんなの場所もきれいにしよう」	226
6 地域財産等の活用	228
3～5歳児 「身近にある地域財産を活用する」	230
3歳児 5月 「親子で遠足、上野動物園」	232
4歳児 11月 「酉の市に行ってきたよ」	234
5歳児 5月 「お祭りごっこをしよう」	236
5歳児 1月 「めぐりんすごろくで遊ぼう」	238

第3章 幼児教育共通カリキュラムで重視する内容と実践事例



1 規範意識の芽生えの育成

規範意識とは

人間として尊重し合い協調して社会生活を営んでいくためには、守らなくてはならない社会のきまりがあります。そのきまりのうち、多くの人が共有しているものが規範です。この規範を自分のものとして自分の中に取り込んだものが規範意識です。

規範意識の芽生えを培うために

幼児期に大切な体験

- 人に愛される体験
- 人とかかわる体験
- 自然や物と触れ合う体験
- きまりやルールを守る体験
- 様々な感情体験

規範意識の芽生えを培うには

- 1 保育者との信頼関係を培うこと
- 2 自己発揮が十分できるようにすること
- 3 人とかかわりの中で折り合いを付ける体験を積み重ねること
- 4 人と気持ちよく生活したり遊んだりするにはルールや約束を守ることが必要ということを幼児自身が体験を通して納得できるようにすること

* 平成20年度台東区教育委員会教育課題研究委員会・幼児の規範意識育成検討委員会資料「幼児の規範意識をはぐくむ ～規範意識の芽生えをとらえ、伸ばす教師の役割～」より 「教師」を「保育者」に置き換えています。



幼児が規範意識の芽生えを培うために必要な体験ができるように、保育士・教員は、幼児の発達や実態に沿った指導計画を立て、見通しをもった指導を積み重ねることが大切です。

◆各時期に大切にしたいこと

3歳児

- 保育士・教員との信頼関係を築くこと
- 安心感をもつこと
- 自分の思いを言葉や動きで表現すること
- みんなで過ごすために必要な約束(順番や遊具の貸し借り等)、簡単な遊びのルールが分かること
- みんなで遊ぶ楽しさを味わうこと

4歳児

- 自分の思いを出し、友達の気持ちに気付くこと
- 葛藤を繰り返し、自分の気持ちを調整しようとする
- ルールを守ると楽しく遊べるのが分かること

5歳児

- ルールの必要性がわかり守ろうとすること
- 自分の気持ちに折り合いをつけること
- 遊びに必要なルールを友達と決めて守ること
- よいこと悪いことに気付き考えながら行動すること

小学校1年生

- よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことをすすんで行うこと
- 約束やきまりを守り公共物を大切にすること

保育士・教員は、園での生活や遊びの中にある規範意識を育む機会を見逃さずに、意図をもった援助を進めていく必要があります。幼児が日常生活の中で感じている生き方や人とかかわりに関するマナーなどについても、保育士・教員が意識付けていくようにしましょう。



ドッジボールの様子

幼児理解

まず、幼児の行動や思いなど状況をとらえましょう。

援助

状況から、規範意識の芽生えを育てる機会をとらえ、的確な援助をしましょう。保育士・教員が望ましい行動をしながら意味や価値観をさりげなくつぶやくこと、状況を分かりやすく伝えることなどを通して、幼児に自分の行動の意味を考えさせるようにしましょう。幼児が、なぜそのように行動するのがよいのかを発達段階に応じて理解し納得することが大切です。また、人権や生命にかかわることについては、よいこと悪いことをはっきりと伝えていきましょう。



評価

保育士・教員の援助を受け、幼児は次の行動を起こします。保育士・教員はその行動から価値を見出し、幼児の気持ちに寄り添いながら認めたり、共感したり、時には慰めたりなどし、幼児自身が自分で考えた、自分でできたという実感をもてるようにすることが大切です。

保育・教育を見直してみよう

規範意識の芽生えを培うためには、保育士・教員が規範意識を身に付けるとともに、下記の点について配慮することが大切です。日頃の保育・教育を見直してみよう。

規範意識の芽生えをとらえる保育者 チェックリスト

◆幼児の理解者として

- 幼児の年齢に応じた発達と個々の特性や状況を理解している。
- 幼児の行動の意味や幼児が伝えたいことを理解している。
- 幼児の行動をその場の状況だけでなく、前後の流れや友達関係などからとらえている。

◆共同作業者として

- 幼児と一緒に遊ぶ中で信頼関係を築き、遊ぶ楽しさや人と一緒に過ごす心地よさを伝えている。
- 幼児とともに心地よい生活の場やクラス集団をつくっている。
- ルールの必要性やルールを守って遊ぶ大切さを分かりやすく伝えている。
- 集団生活のルールを幼児にとって必要感があり、納得のいくものになっている。

◆規範意識のモデルとして

- あいさつをはじめとして、保育者の言動や行動が幼児にとって憧れになっている。
- 人に対して思いやりや相手を大事にしようとする気持ちをもっている。
- 保育者同士が規範意識について共通理解している。

◆保護者との連携

- 保護者との信頼関係を築いている。
- 具体的な場面を通して幼児の姿やどのような指導をしているのかを伝えている。
- 保護者自身に規範を意識させ、幼児のモデルになっているか話し合ったり、確認しあったりする場を設けている。

*平成20年度台東区教育委員会教育課題研究委員会・幼児の規範意識育成検討委員会資料「幼児の規範意識をはぐくむ ～規範意識の芽生えをとらえ、伸ばす教師の役割～」より * 「教師」を「保育者」に置き換えています。



重視する内容 規範意識の芽生えの育成 (例)

「今、手を洗いたいよ」(手洗い)

3歳児 4月

《ねらい》

○みんなで過ごすために必要な約束を知る(順番、遊具の貸し借り等)。

《経験させたい内容》

◎順番があることを知る。
◎並んで待つと自分の番がくるということを知る。

◆保育・教育の実践において重視する点

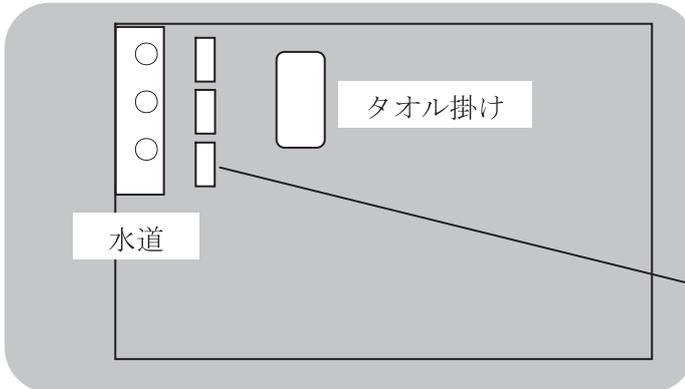
- 1 主体的な活動、協同的な遊び
- 2 見る、聞く、話す力の育成
- 3 計画性・柔軟性のある環境・援助

《活動の概要》

- ・遊んだ後と降園前等に手洗いとうがいをしている。また、幼稚園では5月からお弁当が始まるので、手洗いとうがいの後、いすに座り、お茶を飲む活動をしていることもある。
- ・タオル掛けにあるコップを持ってきて水道前に並び、手を洗ってうがいをする。うがいは個人差が大きいので個別指導で対応する。

《環境》

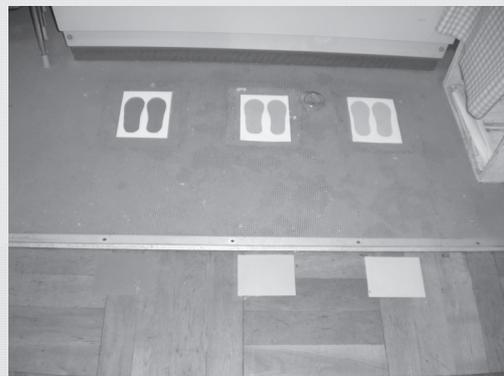
(保育室)



立つ位置にテープで線をつけるなど、幼児が並ぶ場所が分かるようにする。



並んで待ちます



足型を表示した例

《活動の展開》

子どもの姿	保育者の援助・環境の再構成 下線は、経験させたい内容にかかわる援助
<p>②片付けが終わった幼児から手洗いとうがいをする。</p> <p>③A児は、タオル掛けからコップを持って水道にいき、手を洗ったり、うがいをしたりする。</p> <p>⑤後から来たB児が、手を洗っているA児の横に入り、手を洗おうとする。</p> <p>⑦B児は黙ってそのまま洗おうとする。</p> <p>⑨B児は「いやだ！」と言って保育者の手を振り払う。</p> <p>⑩B児は「いやだ。順番いやだ。」と言いながら前に行こうとする。</p> <p>⑬B児は保育者と共に順番を待っている。</p> <p>⑭前で洗っていたA児が終わり、水道が空く。</p> <p>⑯B児はにこにこしながら手を洗い、うがいをする。</p> <p>⑰他の子どもも並ぶという意識がまだないので、後から来て洗っている子どもの横に次々と入ったり、並んでいる子どもの前に入ったりしている姿がある。</p>	<p>①「片付けができれば、手を洗ってうがいをしましょう。」と全体に声を掛ける。</p> <p>④「いっぱい遊んだから、手を石鹸できれいにしようね。」「口の中もガラガラしてね。」と水道前にいる子どもにも具体的な方法を知らせる。</p> <p>⑥「Bちゃんも手を洗いたいんだね。」と気持ちを受け止める。「でも(先に洗っている) <u>Aちゃんが洗っているから、Aちゃんが終わるまで待っててね。</u>」と言う</p> <p>⑧B児の手をとり、「Bちゃん。順番ね。」と言う。</p> <p>⑪「<u>順番。Bちゃんの順番はAちゃんの次ね。並んで待っているとちゃんとBちゃんの番になって手を洗えるから。</u>」と言ってB児の手をとり、保育者も一緒にA児の後ろへ行く。</p> <p>⑫「<u>一緒に待ってしよう。</u>」と手をつないでB児と一緒に待つ。</p> <p>⑮「ほらAちゃんが終わったよ。Bちゃんの番だよ。待っていてよかったね。」と言う。</p> <p>⑱ <u>一人一人に並んで待っていると必ず自分の番になることを伝えたり、一緒に待ったりする。</u></p>
 <p>絵本などの活用</p>	<p>絵本や紙芝居等を活用し、順番を待つこと、並ぶことのイメージをもたせていくようにする。</p>

重視する内容 規範意識の芽生えの育成

◆この時期の援助・環境の構成のポイント

○集団生活が初めてのため、待つ、並ぶという意識がない子どもが多い。保育者と一緒に待ったり並んだりし、自分の気持ちを抑えて待つ経験をすることで、集団生活の中での約束を、体験を通して身に付けるようにしていく。

○人とのやりとりの中で相手の動きに気付かせながら約束を守ろうという気持ちを育てていく。

◆小学校につながる点

○遊びや生活の中でみんなが気持ちよく過ごすためにきまりや約束があることを知り、自分から守ろうという態度を育てることが、規範意識の芽生えを培うことにつながる。

3歳児

4歳児

5歳児

一年生

規範意識の芽生えの育成

こころざし教育

食育

体力の向上

生活習慣・学習習慣の共通化・段階化

地域財産等の活用



重視する内容 規範意識の芽生えの育成（例）

「新しいルールを守って遊ぼう」（増やし高鬼）

4歳児 1月

《ねらい》

○簡単なルールを作り、友達と一緒に遊びを進める。

◆保育・教育の実践において重視する点

- 1 主体的な活動、協同的遊び
- 2 見る、聞く、話す力の育成
- 3 計画性・柔軟性のある環境・援助

《経験させたい内容》

◎トラブルが起こったとき保育者に援助されながら自分たちでルールを考えようとする。

◎友達と一緒にルールを守って遊ぶ楽しさを感じる。

《活動の概要》

- ・「増やし高鬼」はクラス全体で数回経験し、ルールはほぼ共通になっている。
- ・遊びの中で起こったトラブルを保育者に援助されながら子どもたちで解決していくようにする。全体でその出来事を共有し、クラスの新しいルールとしてみんなで共通理解し、ルールを守って遊べるようにする。

増やし高鬼のルール

- ・高鬼と増やし鬼を一緒にしたもの。
- ・最初の鬼は一人。鬼につかまったら自分の帽子を脱いで鬼の仲間になる。
- ・高い所からなかなか降りない時には、鬼はある程度の距離まで下がり、鬼が10まで数える間にその場所から降りて逃げる。

《環境》（遊戯室または園庭・校庭）



あ～あ、つかまっちゃった…。
よし！
今度はみんなをつかまえちゃうぞ。

つかまったら帽子を脱いで
鬼の仲間になります。

鬼が増えてくると
こんな場面も・・・

そんなに鬼が近くにいたら逃げられないよ～。
みんな、もっと後ろに下がってよ！



《活動の展開》

子どもの姿	保育者の援助・環境の再構成 下線は、経験させたい内容にかかわる援助
<p>①全員クラス帽子をかぶる。</p> <p>③二人組になり順番にじゃんけんする。勝ったら座り、負けた幼児同士でじゃんけんをしていく。最後に負けた子どもが最初の鬼になる。鬼は自分の帽子を脱ぐ。</p> <p>⑤友達をつかまえようと追いかける。逃げる。</p> <p>⑥鬼のA児がB児をタッチする。</p> <p>⑦タッチをめぐって二人がもめている。B児が「痛かった！」と訴え怒っている。A児は「タッチしただけだよ！」と言り返す。</p>  <p>B児は自分の気持ちと葛藤していてみんなと一緒に集る事を拒否するが、この後少しずつ近づいてきて話し合いに加わる。</p> <p>⑪全員で話し合う。 C児「痛くないようにそ〜っとタッチしたら？」 D児「でもそ〜っとだとタッチされたかどうかよく分からないよ。」 E児「じゃあ、ポンってタッチすれば？」 F児「ポンタッチだね。」</p> <p>⑭遊びが再開する。B児も新しいルールに納得した様子で、気持ちを切り替え自分の帽子を脱いで鬼になり、「よし行くぞ！」とA児に声をかけ、A児と一緒に走り出す。</p> <p>⑯後日、鬼ごっこをする場面では新しいルールを守って遊ぶ姿が見られた。</p>	<p>②最初の鬼の決め方を知らせる。</p> <p>④鬼ごっこを始める合図をする。</p> <p>⑧何についてトラブルになっているのか把握する。</p> <p>⑨遊びを中断してみんなを集め、A児B児を前に出し、タッチされた時の話をさせる。<u>分かるように話す、しっかり聞くという経験ができるように援助する。興奮して言葉が一方的になったり、乱暴になったりしがちな時にはお互いの気持ちを代弁していくとともに相手の気持ちにも気付けるようにしていく。</u></p> <p>⑩<u>タッチする時、どんなふうにタッチしたらよいかを全体に投げ掛け、ルールについて考えさせる。</u></p> <p>⑫子どもたちが自分の思いを伝え合い、子どもたち同士で解決できるように話し合いの流れを作ったり、<u>子どもの話を整理したりする等、必要な援助をする。</u></p> <p>⑬「<u>タッチするときは、ポンタッチにしようね。</u>」と話し、<u>共通理解させる。</u></p> <p>⑮全員がつかまったところで遊びの終わりを知らせる。今日みんなで決めた新しいルールを確認し、新しいルールで楽しく遊べるように意識付ける。</p>

重視する内容 **規範意識の芽生えの育成**

◆この時期の援助・環境の構成のポイント

○友達と一緒に遊ぶ中で起こるトラブルや葛藤などの場面を通して自分の思いを出し、相手の気持ちにも気付けるようにしていく。

◆小学校につながる点

○遊びの中で自分からルールを守ろうと行動する事で、規範意識の芽生えを育てることにつながる。

3歳児

4歳児

5歳児

一年生

規範意識の芽生えの育成

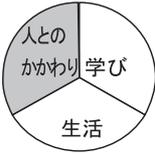
こころざし教育

食育

体力の向上

生活習慣・学習習慣の共通化・段階化

地域財産等の活用



重視する内容 規範意識の芽生えの育成（例）

「みんなで巧技台を組み立てよう」（巧技台の組み立て） 5歳児 5月

《ねらい》

- ルールを守って友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じる。
- どうしたらよいか考える中で友達の思いに気付いたり、自分の考えを伝えたりする。

◆保育・教育の実践において重視する点

- 1 主体的な活動、協同的な遊び
- 2 見る、聞く、話す力の育成
- 3 計画性・柔軟性のある環境・援助

《経験させたい内容》

- ◎ルールを理解して守ろうとする。
- ◎自分で考えたり、友達の意見を聞いたりしながら相談する。
- ◎友達と協力をして、作り上げる達成感を味わう。

《活動の概要》

- ・巧技台を使った遊びは定期的に取り入れてきており、子どもは積極的に遊んでいた。
- ・準備（巧技台の組み立て）は子どもたちが見ている前で保育者が行き、遊んだ後の片付けは子どもたちも一緒に行ってきた。
- ・片付けのルールは何度も確認をしてきており、安全に片付けを行うことができている。
- ・ここでは今まで保育者が行ってきた巧技台の組み立てを自分たちで行なうことを提案し、子どもたち自らが考えながら巧技台を組み立てることと、みんなで力を合わせることに重点をおく。
- ・巧技台を組み立てる前に、どのように扱ったら危険がないか、どんなことに気を付けたらよいかなど、巧技台を扱う際のルールを子どもたちに確認し、安全に遊べるように見守っていく。

《環境》（遊戯室）



種類と運び方を確認します

巧技台を全て出して、どのような種類のものがあるのかを確認する。また、運ぶ際のルールを子どもたちに投げ掛けながら確認していく。

巧技台をどのように配置するのかをみんなで考え、まずはその場所に置いてみる。その後で、みんなで手分けをして巧技台を組んでいく。



みんなで組み立てていきます

《活動の展開》

子どもの姿	保育者の援助・環境の再構成 下線は、経験させたい内容にかかわる援助
<p>②保育者と一緒に巧技台を運び出す。</p> <p>④保育者の提案に賛成し、組み立て始める。</p> <p>⑤数名で、四角い枠をいくつか重ねて、幼児の胸の辺りまで積み上げ、蓋を乗せる。</p> <p>⑦A児が一人でビームを持ち、運び出す。</p> <p>⑧B児が「一人で持ちやいけないんだよ。危ないよ。」とA児を注意するが、A児はそのまま一人で運ぶ。</p> <p>⑩二人のやりとりに気付いた数名がA児、B児のそばに集まる。</p> <p>⑫保育者のそばに集まる。</p> <p>⑬A児、B児それぞれに自分の思いを話す。A児は「誰もいなかったから一人で運んだんだ。」と話す。</p> <p>⑯C児が「一人で運ばないで誰かに手伝ってと言えよよかった。」と言う。</p> <p>⑲再び巧技台を組み出す。先ほどとは違い「こっち、誰か手伝って。」などの声が多く聞かれる。その声に他児も応える姿が目立つ。</p> <p>⑳アスレチックが完成し、自分たちで組み立てた巧技台で遊ぶ。</p>	<p>①巧技台を子どもと一緒に運び出す。</p> <p>③運び出した巧技台を一つ一つ確認し、「みんなで、アスレチックを作ろう。」と提案をする。</p> <p>⑥子どもの自主性にまかせながら、<u>危険がないように見守る。</u></p> <p>⑨しばらく二人のやりとりを見守る。</p> <p>⑩組み立てを中断し、子どもたちを集める。A児、B児にみんなの前で今のやりとりを説明するように促す。</p> <p>⑭互いの気持ちが伝わるよう、<u>言葉を引き出したり、相手の話を聞くように注意を促したりする。</u></p> <p>⑮<u>A児の気持ちを汲む言葉をかけながらも、どうすればよかったのかを子どもたちに考えさせる。</u></p> <p>⑰<u>子どもたちから出た意見に共感したうえで、どうすればよかったのかを具体的に確認する。「これからは近くのお友達に手伝って、と言えよよかったね。」</u></p> <p>⑱再び、巧技台を組むように言う。</p> <div data-bbox="896 1133 1430 1529" data-label="Image"> </div> <p>⑳完成したことを、一緒に喜びながら、<u>みんなが力を合わせたからできたことを伝えていく。</u></p>

3歳児

4歳児

5歳児

一年生

規範意識の芽生えの育成

こころざし教育

食育

体力の向上

生活習慣・学習習慣の共通化・段階化

地域財産等の活用

重視する内容 規範意識の芽生えの育成

◆この時期の援助・環境の構成のポイント

○ルールを理解していても、場面によっては守れない状況もまだあるので、ルールを守ることの大切さを繰り返し知らせていくようにし、次第に自ら守ろうとする気持ちが芽生えるように援助していく。

◆小学校につながる点

○活動の中でルールを守る経験を重ねることで、ルールを守ることの大切さに気付き、すすんできまりを守ろうという気持ちを育て、規範意識の芽生えを培うことにつながる。



重視する内容 規範意識の芽生えの育成 (例)

「ルールを自分たちで作る、守る」 - 3すくみ鬼 - 5歳児 2月

《ねらい》

○簡単なルールを作り出し、友達と一緒に遊びを
発展させる中で守ろうとする。

◆保育・教育の実践において重視する点

- 1 主体的な活動、協同的な遊び
- 2 見る、聞く、話す力の育成
- 3 計画性・柔軟性のある環境・援助

《経験させたい内容》

- ◎同じチームの友達と力を合わせて取り組み、ルールを守って遊ぶ楽しさを感じる。
- ◎問題が起こったとき、自分たちでルールを考えようとする。

《活動の流れ》

- ・“3すくみ鬼”は、クラス全体で、数回経験し、ルールはほぼ共通になっている。
- ・ここでは、遊びの途中で起こったトラブルを、子どもたちで解決していくようにする。また、全体でその出来事を取り上げ、共通理解しクラスのルールにする。自分たちで決めたルールをきちんと守るようにしていく。



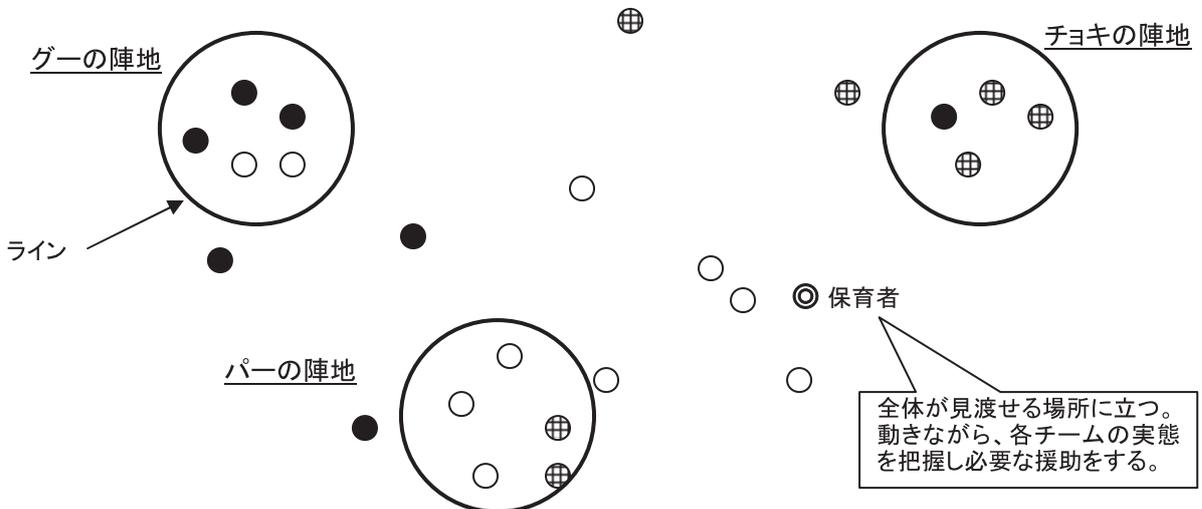
“3すくみ鬼のルール”

グー・チームは、チョキ・チームを捕まえる
 チョキ・チームはパー・チームを捕まえる
 パー・チームはグー・チームを捕まえる
 捕まった人は敵の陣地にいる。
 仲間にタッチしてもらえたら、仲間と手をつなぎ、自分の陣地にもどれる

《環境》(遊戯室または園庭・校庭)

保育者がラインを引くときの様子を見てラインの引き方を学ぶ子どももいる。子どもたちが主体的に鬼遊びを始められるように、保育者は子どもが引ける方法でラインを引く。終わった後もラインの跡が見えるよう、全部消さないようにする

陣地の大きさは、安全面に配慮し参加人数に応じて調整する。各陣地間の距離は運動量や参加する子どもの運動能力を考慮するとともに互いのチームの状況が感じられる距離にする。



《活動の展開》

子どもの姿	保育者の援助・環境の再構成 下線は、経験させたい内容にかかわる援助
<p>○3列に並び前から3人組を作る。ジャンケンをし、勝った人、二番目に勝った人、一番負けた人ごとにチームを作る。カラー帽子をかぶり、戸外に出る。</p> <p>○友達を捕まえようと追いかける。逃げる。周りの様子を見ながら、捕まっている仲間を助けようとする。同じチームの友達と相談する。</p> <p>○A児が自分の陣地に入るところでB児にタッチされる。</p> <p>○捕まったか、捕まらないかで二人がもめている。どちらとも言いがたい状況である。</p> <p>○そばで見ていたC児が、ジャンケンで決めることを提案し、A児B児も了承する。</p> <p>○保育者のそばに集まる。</p> <p>○A児B児C児は先程の出来事について話し、元の場所にもどる。</p> <p>○全員で話し合う。</p>  <p>○遊びが再開する。</p> <p>○自分の陣地に集まり、すわる。チームごとに捕まえた人の数を発表する。</p> <p>○勝ったチームは喜び合い、負けたチームは残念がる。</p> <p>○保育者のそばに集まる。</p> <p>○「勝ってうれしい」「○○ちゃんに助けてもらってよかった」などの話をする。</p>	<p>○チーム分けのしかたと各チームの名称(たとえばグーチーム)を伝える。</p> <p>○鬼ごっこを始める合図をする。</p> <p>○一人一人の子どもの様子を見ながら、がんばっていることを認める。<u>チームの友達と力を合わせている姿を具体的に認める。</u></p> <p>○<u>何についてトラブルになっているのか把握する。子どもたちが自分の考えを伝え合い子どもたち同士で解決できるように、必要な援助をする。</u></p> <p>○一人一人が納得しているかを確認する。</p> <p>○遊びを中断し皆を集め、A児B児C児を前に出し、陣地に入るところで捕まった時のことを話してもらう。</p> <p>○<u>分かるように話す、しっかり話を聞くという経験ができるように援助する。</u></p> <p>○<u>捕まったとき陣地に入ったかどうか分からないときは、ジャンケンで決めるのでよいかを全体で話し合う。明らかに陣地に入っていたときや逆に陣地に入っていないときについても確認する。</u></p> <p>○「これは□□組のルールだね」と共通のルールということ伝える。</p> <p>○遊びの終わりを知らせる。子どもに捕まえた人数を数えさせ、勝敗を考えさせる。捕まえた人数の一番多いチームが勝ちとなる。</p> <p>○一箇所に子どもを集め、今日の鬼遊びの感想を聞く。</p> <p>○子どもの気持ちに共感する。</p> <p>○今日みんなで決めた新しいルールを確認する。</p> 
<p>○後日、3すくみ鬼をする場面では、皆で決めたルールを守って遊ぶ姿が見られた。</p>	

《小学校につながる点》

○遊びの中で、自分たちで簡単なルールを作り出し、守ることは、主体的な態度を育てるとともにすすんできまりを守ろうという気持ちを育て規範意識の芽生えを培う。

3歳児

4歳児

5歳児

一年生

規範意識の芽生えの育成

こころざし教育

食育

体力の向上

生活習慣・学習習慣の共通化・段階化

地域財産等の活用